

毎日更新(予定)!



学校ホームページ



響きの学び舎 世田谷区立駒留中学校

申 駒留中だより



プールの季節 到来!



夏に育てたいもの



校長 阿部 暁

いよいよ夏休み、今年は45日間と比較的長めです。ぜひ、このまとまった時にこそできることに挑戦してもらいたいものです。まとめて本を読む、美術館や博物館、普段行けない所へ出かける、地域の行事に参加する、自然の中で過ごす…学校生活とは違った経験が、皆さんの世界を広げてくれるはずです。

もちろん、3年生にとっては勝負の夏でしょう。その前に通知表ですが…実は先日、ある実技教科の先生から「期末テスト、全然勉強してなかったみたい」という悲しそうな声が聞こえてきました。通知表を見て「もう3教科だけで勝負しよう」と考える人もいるかもしれません。先日の「卒業生のお話を聞く会」でも「自分は3教科に絞って勉強した」と話す先輩もいました。

かつて(かなり昔ですが)私自身も私立第一志望だったので、その気持ちはよく分かります。しかし、高校受験で求められる力も社会で求められる力も、大きく変わってきていることに目を向ける必要があります。

実際、最近の入試では知識を覚えるだけでは解けない問題が増えています。複数の資料やグラフを読み取り、自分の考えを記述する問題や、数学でも答えだけでなく考え方を説明する問題など、「知識を活用する力」が重視されるようになっていきます。

そして、高校受験のその先にある社会では、さらに大きな変化が起きています。スマホがあれば歴史の年号も英単語の意味も、数学の解き方も瞬時にわかる時代です。だからこそ必要なのは、「何を知っているか」だけではなく、「どんな問いを立てるか」「その答えをどう生かすか」を考えられる能力です。

私ごとですが、以前ワインの資格取得のためにスクールへ通ったことがあります。教室には、ソムリエとしてキャリアアップを目指す方だけでなく、仕事とは直接関係なく学びに来ている方も多くいました。そして、皆さんに共通していたのは、自分の仕事に誇りをもち、生き生きとしていたことです。

そうした人たちとよく、お互いの仕事の話に加えて「なぜワインを勉強し始めたか」ということを話題にしました。すると多くの方は、「もちろんおいしいワインについて知りたかったのだけど、本当に興味があるのは、その背景にある文化だ」と話していました。ワインには一本数百円のものもあれば、百万円を超えるものもあります。その違い…気候や土壌、産地の歴史や文化、生産者の哲学、料理との組み合わせ…一本のボトルには、多くのストーリーが詰まっており、その世界が見えるようになるのが面白い、と皆さん楽しそうに話していました。

年齢も職業も異なる人たちが集まると、話題はワインにとどまらず、音楽や美術、建築、歴史へとどんどん広がっていきます。そうした語らいの時間は、私にとってとても刺激的でした。またその方々と時間を共にするたびに、「何かの役に立つから」という理由だけで学ぶのではなく、「知りたい」「感じたい」「理解したい」という知的な好奇心をもち続けることが、人に自信を与え、魅力的な人物へと成長させるのだと実感しました。

世界に目を向けると、そうした学びを大切にしている例は少なくありません。アメリカの一部の医学部では、美術館で絵画を鑑賞する授業が行われているそうです。芸術に詳しくなることが目的ではなく、作品を丁寧に観察し、「何が見えるのか」「そう考えた根拠は何か」を言語化する力を養うのだそうですが、その経験が、患者のわずかな表情や身体の変化に気付く観察力につながるといわれています。

一方で芸術やデザインの視点を大切にしている企業も少なくありません。世界的な企業でも技術力だけでなく、「使う人はどう感じるだろう」「もっと心地よい体験にできないか」という発想を重視し、新しい製品やサービスを生み出しています。優れた技術だけでは、人の心を動かすものは生まれません。創造性や観察力、多様な価値観を結び付けられる力が、新しい価値につながるのです。

その考え方は、近年注目されているSTEAM教育の考え方にも通じます。「A」の部分の「Arts(芸術)」が加えられているのは、芸術が「絵が



河口湖美術館にて学芸員さんの話を聞く1年生

上手になるため」の学びではなく、物事を多面的に捉え、新しい発想を生み出す力を育てるものだと考えられているからです。

中学校は高校受験に合格するためだけの場所ではなく、人生を豊かに生きるための土台を築く場所です。音楽や美術、保健体育、技術・家庭をはじめ、一つ一つの教科には、そこでしか育てられない力があります。直接受験とは関係ないように感じるでしょうが、そこで育まれる観察力、創造力、表現力、協働力、多面的な思考力は、これからの社会でますます求められる力であり、「受験の先の人生」を支える大切な土台となります。

この夏、受験に向き合うことはもちろんですが、自分の世界を広げる時間も大切にしてください。知的好奇心をもち、自ら問いを立て、多様な価値観に触れ、感性を磨き続けること。その積み重ねは、受験だけでなく、その先の皆さんの人生を豊かにしてくれるはずです。



2年生 職場体験



2学年主任



7月1日から3日に実施した職場体験学習では、駒留中学校の近隣の事業所をはじめ、主に世田谷区内の職場で3日間子供たちを受け入れていただき、丁寧にご指導いただき、無事に実施することができました。本当にありがとうございます。教職員一同、感謝の気持ちでいっぱいです。

この学習は、「働くことの意義や生きがいなど望ましい職業観、勤労観についての理解を深めること」と、「自己の生き方を学ぶこと」「社会人としてのマナーや生活態度を身に付けること」3つを目的としています。

事前指導では、常に職場体験を受け入れてくださる事業所の方々に感謝の気持ちを忘れずに、事後学習まで一人ひとりが意識を高くもち、しっかりと取り組めるように準備を進めていきました。体験中のみんなの様子と事業所へのご挨拶を兼ねて、2年の教員が巡回すると、必ず「頑張って取り組んでいます」「たくさん質問してくれました」「真面目です」などと、ほめていただきました。普段は見ることができない、入ることができないバックヤードなどに入ったり、保育園等では先生方が大切にしていることなど、体験を通して、感じたりすることができました。それぞれの職場の方々に温かく迎えていただき、ご指導いただいたおかげで、3日間充実した体験ができ、大きく成長することができました。事後学習では、職場体験のことを一人一人がレポートにまとめ、2学期には職場体験報告会も予定しています。今は感謝の気持ちを込めてお礼状を書き、これから送ります。

この学習を通じて、生徒は実際に社会で働いている方々と接し、仕事を体験したことで、「働く」ということの意味を理解するだけでなく、大変さとともに大きな喜びもあることを実感できたのではないのでしょうか。体験を通して、感じたことや考えたこと、課題など、今後の学校生活に積極的に生かし、中学校卒業後の進路選択等につなげてもらいたいと思います。ご協力をいただいた約30か所の事業所の皆様、誠にありがとうございました。



1年生「思春期の心とからだ」の授業



生活指導主任・1学年主任

7月8日（水）に「将来に向けて大切にしたいこと」というテーマで、東京医療保健大学医療保健学部教授の渡會睦子先生をゲストティーチャーにお招きし、「思春期の心とからだ」に関する授業を行いました。先生の話の中では「人生の計画、健康的な意思決定・行動選択の実現」「思春期のからだ・心の変化」「適切なコミュニケーション」「性被害、事件・事故の防止」などについて説明があり、先生からの質問に答えながら、和やかな雰囲気の中で授業は進み、深く学ぶことができたと思います。夏休みを前に、性についての正しい知識をもち、自分や周りの人々をより一層大切にする心が育まれたと思います。



リアルタイムの生徒・学校の様子、直近の行事予定はホームページに掲載しています。そちらもご覧ください！